

酒害からの回復には家族の協力が必要

1. 自助グループ統計（断酒会）に見る明瞭な傾向

家族会員の比率が高い地域ほど地域人口に占める正会員数の割合が多い。

2. 酒害相談に訪れるのは家族が圧倒的に多い

保健所にせよ、自助グループにせよ、最初に酒害相談に訪れるのは家族が圧倒的に多い。本人の自覚よりも家族の懊悩・困窮の方がより早く深刻であることが分かる。家族をしっかりと治療の糸口として捉えることが、早期治療の上で、重要である。

3. 自助グループ参加も家族主導が多い

医療機関の勧めによる場合、直接入会する場合に限らず、自助グループに加わる判断は家族が先に入会するか家族に後押しされているケースが多い。

自助グループ入会経路集計データ

上段:実数 下段:比率

2010～2011 断酒会調査

種別	専門病院	専門病院	一般病院	専門 クリニック	行政・保健	自助 G	知人・同僚	その他	合計
	自分で入会	センターの紹介			家族の勧め				
全体	253	205	28	51	40	68	97	62	804
	0.31	0.25	0.03	0.06	0.05	0.08	0.12	0.08	1.00
男性	228	176	25	44	38	57	78	44	690
	0.33	0.25	0.04	0.06	0.05	0.08	0.11	0.06	0.99
女性	25	29	3	7	2	11	19	18	114
	0.22	0.25	0.03	0.06	0.02	0.1	0.17	0.16	1.00
単身	107	87	5	24	17	29	38	29	336
	0.32	0.26	0.02	0.07	0.05	0.09	0.11	0.09	1.01
既婚	146	118	23	27	23	39	59	33	468
	0.3	0.25	0.05	0.06	0.05	0.08	0.12	0.07	0.98

4. 自助グループと回復過程における家族の協力

- ・はじめは、家族のリードが自助グループ定着の支えになる。
- ・家族の体験談が本人の忘れていた断酒体験を掘り起こす。
他会員の家族の体験談が過去の酒害の追体験をさせる。自分の家族以上に素直に体験談が吸収される。
- ・家族による病気の理解が正しい対応に繋がり、本人の回復を促進する。
家族の賞讃と喜びが動機を強める。
- ・家族の存在と家庭の幸福が第二の否認の解除（飲酒行動だけが問題ではないことを認める）と新生を促進する。